

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000375		
法人名	医療法人 名翔会		
事業所名	グループホーム 和合の家		
所在地	愛知県愛知郡東郷町大字春木字白土1-1884		
自己評価作成日	平成23年1月14日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成23年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切にし、ご利用者の方に感謝して、「和き合いあい暮らせる家」を理念をもとに笑顔あふれるグループホームです。また、毎月一回必ず全員で外出しホーム内に閉じこもらず、気分転換をはかり地域に根付いていけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の老人保健施設に併設されていることによる利点を活かし、リハビリに行ったり習い事・レクリエーション等でも折々に行き来して利用者の気分転換を図ると共に家族の安心感にもつながっている。日頃から地域に馴染んだ生活を心掛けており、ボランティアの輪も広がっている状況が窺える。全てに於いて自然体で利用者と職員だけでなく職員同士も普通の家族の感覚で日々過ごしているが、その中でも職員は常に問題意識を持ちながら活発に意見交換をに対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和き合いあいと暮らせる家」を理念とし、その人らしく共に共存し支えあい、楽しく何でも言い合える家族のよう第2の我が家になれるよう日々努力をしている。	玄関・リビング・廊下に理念が掲示されている。規則や枠にはめることなく、一人一人の価値観を大切に笑顔になれる様に職員と利用者が助け合いながら日々のケアに活かしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場による現任研修に参加し意見交換を行ったり、毎年、地域学生の職場体験の受け入れも行っている。	保育園の運動会・学芸会への参加や町主催の納涼祭り・盆踊りへの参加をしている。また、中学生の福祉体験ボランティアも毎年受け入れおり、フラダンス等のボランティアも増えている地域の人々との交流が広がっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、普段のGHの見えていただいたり、一緒に食事をしていただいたり、毎月の事業報告を行い意見交換している。	本年度より、運営推進会議が年6回開催されている。東郷町福祉部長寿介護課の職員をはじめ地域包括支援センター職員・民生委員・ボランティア代表・家族等の出席で、事業報告を行うと共に質問や意見を聞き、検討してケアの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	和合の家だよりや運営推進会議において連絡を密にとり、役場からの依頼において介護相談員が訪問しGHの取り組みに参加されている。	管理者が替わっても以前からの協力関係が築かれており、役所との連絡、地域包括支援センター職員とも顔を合わせる機会が増えている。又、役場・製薬会社主催の医療と認知症の連携についての講演会でパネラーを依頼され出席した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が一人ひとりの行動を把握しており、さりげなく声をかけたり、一緒に散歩に行ったり、その時の状況に応じて対応し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「虐待と拘束について」の外部研修に参加し、内部で資料を配り報告を兼ね勉強会をした。日頃から言葉の遣い方には気をつけ、職員間でもお互い声をかけ合い注意すると共に、外へ出かける傾向のある利用者には一緒に歩いて歩く様努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士虐待防止を心がけており、研修などにも参加をし伝達講習をして意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を申請された方もあり、これからも必要時に支援できる体制を整えていく必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人、ご家族にGHを見学していただき関係作りに努め不安や疑問がないか十分話をして聞き出しこのこと出来ないことも話し納得の上で契約を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時やご利用の方が自室でゆっくりされている時などに声をかけ意見や要望を聞いている。要望など出ればその都度話し合い、職員全員で解決できるよう取り組んでいる。	家族交流会が年1回開かれている。本年度は盆踊りの際に行われ、家族の参加率も高かった。日常的に要望・意見を聞く姿勢を大切にしている、要望・意見が出た場合には職員間で話し合い速やかに対応する様心掛けている。	家族の面会時に利用者の様子を話しているが、面会の頻度は家族によって様々である。そこで、家族宛に月1回送付される「和合の家だより」で利用者個々の様子を知らせるとともに家族からの意見や要望が出しやすいように働きかけ、密な関係を築いていくことを期待している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より業務にかかわれるようにし、できるだけその場で職員の意見や要望を聞けるようにしている。	毎日の申し送りに時間をかけそこで出された意見を速やかに管理者に報告し、日々のケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員のやりがいにつながるよう、介護職員処遇改善事業の申請をしており法人全体でバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのレベルに合わせた研修を計画しており、研修案内を掲示し希望の研修があれば勤務時間内に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会に参加しており、研修で他施設の職員との交流を深め情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にできる限り、ご本人、ご家族に会い要望など直接話をし伺い、その情報をもとに書類で職員が共有し、利用者に受け入れられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、不安なこと、要望などを相談時十分にききとり、入居前にGHに訪問していただいたり、連絡を行ったりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、相談時に、ご本人やご家族の情報を把握し、できるだけ柔軟な対応を行い、必要に応じサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と喜怒哀楽を共にし支えあい、日々ご利用者の力を借りて成り立っていることを身をもって全職員理解している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問時、日頃の状態を報告、相談し気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りをしており、一緒に食事をされたり、宿泊される方もみえる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の老健へ友人に会いに行ったりGHIにも遊びに来られる方もみえる。また、毎月なじみの美容院へご家族と行かれる方もみえ継続できるよう支援している。	昔の教え子が子供をつれて面会に来たり年賀状のやりとりもある。馴染みの美容院・床屋へ行く利用者もあり知り合いとの交流を継続出来る様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士が近くにいれるよう座席など配慮し、生活の中で得意なことを役割としてお互い認め合って生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のところ顔を見に行ったり、ご家族の方から連絡いただいたり、運営推進会議にも参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ご本人ご家族に希望を確認し、入居後もよりよい、なにげない会話からご本人がどのように暮らしていきたいか把握に努めている。	普段の何気ない会話から把握して、言える人には欲しいものがあれば管理者が買ってきたりしている。伝えることが出来ない人に対しては、利用者の立場に立って考えるようにして表情で確認したり、コミュニケーションをとって検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族のこれまでの生活歴、暮らし方などお聞きし、生活に違和感ないように入居後もご本人に確認し、安心して過ごせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのリズムを把握しており普段の仕草や申し送りで状況を確認しており、その都度職員同士情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り時など、変化があった時など職員同士話し合い、決まったことは日誌に記入し、介護計画に反映している。	モニタリングは3ヶ月毎に行っており、プランの変更は6ヶ月毎である。変化があった場合は家族とも相談しながら随時対応している。医師からは受診の時に相談してアドバイスをもらい計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の暮らしぶりの様子や行動を記録することで情報を共有し、職員一人ひとりの気づきを大切に介護計画の作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、意向に応じて通院介助や往診を行っており、併設の老健でのリハビリ、機会浴、行事にも参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方の紹介で、地域で実施されるイベントに声をかけていただいたり、ボランティアの方による買物や買い物の付き添い、新しいボランティアの方の紹介など協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望により、以前からの主治医に受診される方もありその際、日頃の情報を提供している。希望される方にはGH1階にクリニックがあり、月1、2回定期受診している。又、歯科、訪問マッサージの往診にも来ていただいている。	入居の時にほとんどの人がホームの協力医に変更しており、定期的に1Fの病院へ受診に行っている。その他、眼科や整形外科などへは基本的に家族が連れて行っているが、家族が対応できない時は職員が同行している。紹介状のやりとりなどで協力医との連携はできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックと老健が併設しているため、日頃から看護師に相談でき、けがによる応急処置や急変時の対応など連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時安心していただけるよう職員が付き添ったり、入院後ご利用者の方と職員と一緒に面会に行っている。又、連絡をとりご家族から情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療処置が必要になってきた場合については、入居時、ご本人ご家族とともに話し合い確認し、書面に残している。又、面会時に日頃の情報をご家族に報告している。	入居の際に話しているが、重度化してきたら再度家族と話し合い、ホームでできる限りは看ている。情報をもとに対応方針を定め職員間で共有できること、できないことを見極め検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行っている普通救命講習に職員全員参加している。また、併設の老健看護師にも協力いただき応急手当を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の方、併設の老健の協力による避難誘導、消防署員立会による消火体験を行っている。	10月には運営推進会議も兼ねて消防署員にも来てもらい、夜間想定訓練を行なった。3月は内部訓練で水消火器の使い方などを練習した。消防署からは場合によっては1ヶ所に固まっていた方が安全というアドバイスもあった。訓練には役場の職員、ボランティアや地域の人の参加もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切に声掛けなどさり気なく行い、誇りを傷つけないようにしている。又、法人でプライバシーマークを取得しておりGHIにおいても個人情報保護に取り組んでいる。	日常的に職員は利用者の尊厳を傷つけないような支援を行なっている。法人でプライバシーマークを取得しており、更新の際に調査に来て対応している。また、内部研修でもプライバシーのことに于行なっている。書類は鍵付きでリビングに置いてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望を表したり、自己決定できるようよりそい関係づくりをし、選びやすいよう選択肢を出したりし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのリズムに合わせ、起床、就寝時間、食事時間などそれぞれのペースで過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣に合わせ、ご本人に洋服選びをしていただき、外出時など希望があれば化粧やマニキュアなど喜んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら無理のないよう食事の準備や片付けを一緒に行いアドバイスもらいながら調理やメニューを考えている。	食べたい物を利用者に聞きながら、メニューを考えて作っている。買出しは生協と近所のスーパーへ行っている。水分が飲み込めない人にはゼリー状の食事を、また歯がなくなってきた人にはきざみ食からミキサー食にするなど細やかな配慮がされている。職員も一緒に食事介助したり、会話しながら楽しそうに食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事、水分の形態を変えたり、好みのものを提供して確保している。月1回体重測定を行い増減を確認し必要があれば主治医、管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りながらお茶でむせられる方は歯磨きティッシュを使用したり、本人の力に合わせた口腔ケアを行っている。週一回歯科往診があり必要な方はケアを行い職員も指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スムーズにトイレで排泄できるようにトイレのドアを開けておいたり、センサーを設置したり、排泄チェック表で排泄時間を把握し支援している。	チェック表で誘導してトイレで排泄してもらうよう支援している。夜はおむつやパットの人もいるが、部屋のトイレへ自分で行く人もいる。部屋のセンサーが鳴ったら職員が駆けつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操や散歩などの運動を行い、食事でもオリゴ糖やヨーグルト、食物繊維の多い食材や訪問マッサージによる便秘予防のマッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯を決めず毎日提供している。ゆず湯や菖蒲湯を行ったりして季節感をあじわっていただいたり、入浴剤も毎日かえ楽しんでいただいている。	午後2:00～6:00ぐらいの間に入浴をしており、毎日入る人もいる。一番風呂に入りたがる人は譲り合って入っている。入浴を嫌がる人には無理強いはないが、タイミングをずらして声をかけている。車イスの人は隣の老人保健施設の機械浴で入っているが、週2回なのでそれ以外の日は清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、リビングでも横になっていただけるよう畳のコーナーがあり、ソファも多く配置し一人になれる空間もある。夜間は、安眠できるよう室温調整などこまめに行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で内容を把握し、内服時は一人ひとりの能力に応じ、職員が見守り、必ず内服確認している。症状の変化があれば主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の生活歴や職歴などの情報を参考にし、普段の会話の中でやりたいこと出来ることを考慮し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月一度は外出し、四季折々の季節感をあじわえるよう希望を聞いたりして支援している。月の外出予定を玄関先に掲示したり、ご家族やボランティアの方々に声をかけ協力いただいている。	天気がいい日は散歩したり、買物のときにも一緒に出かけている。季節ごとに花見や潮干狩り、紅葉狩り、デンパークなどに外出しているが、その際にはボランティアも一緒に行き利用者に付き添ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了承のもと、ご本人がお金を所持されている方もみえるが、ホーム内でもお小遣いを預かり、病院や移動美容室の支払い買物に行かれた時の支払いをできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば併設の老健の公衆電話を利用している。また、毎年年賀状を書かれ交流されている方や携帯電話を持たれている方もみえる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって雛人形、五月人形、手作りのこいのぼりやクリスマスツリー、年末にはみんなですついたお餅を鏡餅にして飾り四季を感じていただいている。	居間の入口には飾り棚があり、利用者の写真や好きなぬいぐるみなどが飾られている。壁には利用者の描いた絵を飾ったり、季節の花を生けたりしている。家庭的な雰囲気でも温もりを感じる空間である。畳コーナーでは洗濯物をたたんだり、昼間横になっている人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやいすを多く配置し、一人になれたり、気の合った方とお話できるような一ヶ所にまとめず、ところどころに置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使用していた馴染みに家具などを持ち込んでいただいたり、入居後も、ご本人とご家族と相談しながら仏壇を置かれたりしている。また、ご本人の能力に応じベットの高さや位置なども工夫している。	広い居室は光が沢山入り明るく、ベッドはそれぞれ好きな位置に置いてある。家族が持ってきた花が部屋に飾ってあったり、大切な仏壇や好きな鉢植え、衣料品など馴染みの物を持ち込んでいる。部屋で過ごすことが多い人は、新聞やパズル、切り抜きノートなどが置かれ、その人らしい生活空間のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には自室がわかるよう写真やネームプレートをかけたたり、了承を得て自室トイレの場所が一目でわかりやすいよう扉をはずしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375000375
事業所名	グループホーム 和合の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	役場と町と和合の里全体での納涼祭りや盆踊りでは来賓席が用意される程その存在が地域に根付いている。民生委員からコミュニティセンターでの催しに誘いがあるなど行事が増え、ボランティアがボランティアを誘う形で輪が広がっている。地域の住民から大根等の無農薬野菜や漬物の差し入れもある	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	これまで3ヶ月毎の年4回だった運営推進会議が2ヶ月毎の年6回に増え、運営推進会議と家族会を兼ねて開催することで和気藹々とした関係作りにも役立っている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	管理者が替わり役所と密に連絡を取り合う様になり地域包括支援センターの職員からはホームの空き状況の問い合わせや利用者の紹介があった。又、役場からの講演等の依頼に応える場合もある。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	「和合の家だより」を月1回、家族に送付すると共に役場へも持参することで、様々な意見を出すきっかけ作りに役立っている。かかりつけ医に付き添った家族から薬の変更や服薬についての説明・依頼があったり、リハビリを曜日を決めてやって欲しい等の要望が出た際にも可能な限り速やかに職員で対応している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○				

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。